

会 議 の 経 過

1 開 会 午後3時

(福井教育長) これより第11回教育委員会定例会を開会する。

2 前回議事録承認

3 議事録署名委員の選出 宮近委員

4 議事

(1) 議案第25号 倉吉市立小学校適正配置協議会設置要綱(案)について

学校教育課長 (資料に沿って説明)

教育長 先回も協議をしていただきましたが、いかがでしょうか。

(各委員意見なし)

教育長 特に第3条のところは、反対も含めて意見があると思いますので、まだこのところでは、統合するんだという決定で行くってということではなくて、様々な課題ということで表現をさせていただいているということ。協議会のこの性格は何ですかという風に多分おっしゃると思いますけれども、この場合については反対の意見を言ってもらおうということも当然有り得るんだということ踏まえてのもの。準備委員会とはその少し手前でいうことで確認をしておきたいと思います。

それではよろしゅうございましょうか。

教育長 (各委員異議なし)・・・承認

5 協議事項

(1) 教育長職務代理者について

教育長 (資料に沿って説明)

教育長

(各委員意見なし)

(2) 倉吉市教育委員会防災計画(案)及び倉吉市避難所運営マニュアル(案)について

教育総務課長 (資料に沿って説明)

学校教育課長 (資料に沿って説明)

教育長

今まで提案がありましたけれども、自主防災等で土曜授業等を活用しながら、それぞれ避難をしてきて、α米を炊いたりなどやっているわけですが、実際に何町がどこに座れとか集まれという、そこまでは細かいことを決めていないんです。そこで、一応こういうことを決めておく必要があるだろうと。

例えば、食量班なら食量班という風なことを今まで石巻の方にも行ってもらいました職員にその知見を活かしながら、こういったものをより具体的な物に作らせてもらったということです。現実問題、昨夜も2回ほど地震がありましたけれども、いつ起こるかわからない。ということになってくると、どういう風に動いていくか、学校がどうか教員が実際に動かないとですね、学校が回らんということがあります。それから現実、熊本でもやはり先生方が献身的にやっているというのが現実です。そういったことを考えると、予めこういうものを作って置く必要があるんじゃないかなということで作らせてもらったというものでございます。

まだまだ不完全なところもいっぱいあるんですけども、ご意見をいただければと思います。

委員

大変よく出来ていると思うんですけども、実際こういうマニュアルに沿って動けるかということは、相当な訓練を重ねないと難しいなという。

まずはどうでしょうかね、このマニュアル、各自治公民館で自分たちの村で訓練してみたらという、こういうものを活かしてそういう意識を高めない、これはすごいなと思って。

だってランタンを用意しろとか、学校はできていますか？ランタンなんてないでしょう？電池もないし、じゃあガスボンベはあるかといえば、そんなものもないでしょうし、書くだけではなくてどう備えておくかということは、これから災害の時代に入りましたんで、もう少し一歩深めて考えないといけないかもしれないですね。今からでも準備できるものがあれば用意しておく、ここの受付でどうだこうだ、何班はどこだということになると、小学校の図面にここが本部でここがということぐらいは入れたものをコピーして、100枚や200枚配布できるような形になっていないと、どっどき、みんなが初めてみたいなことでは機能しない。

もう少しこれを、せっかくできたものは深めていくべきではないかなという印象を感じました。よく出来ていると思いました。

教育長

実際に、この体育館に本当はここに入れるわけではないんですけども、ここところはうちの行った職員も言っていましたけれども、最初は土足で入っていた。けれどもそれでは伝染病になる恐れもありますので、体育館はとにかく土足禁止にさせてもらった。で、ここのところメインの公道を作って、班の割り当てを作っていった。そこから始めたということでしたから。彼が行ったのが2週間目に入ったところだったと思うんですけども。でもこれが最初から出来ていれば、ちょっとイメージが出来ていれば違うだろうなと思うんです。まずは、本部をどこに置くかということからですね。実際これをシミュレーションしながら、もっとこれがあるとかいうのが出てくると思いますから。地域学校委員会が一番良いのかな？

委員

それと学校だからと言っても、例えば夜、休日の夜とかだったら先生方がおられない状況も考えなければいけないので、場面場面でこの時は中心になって動くのは誰っていうのがそれぞれに無いと、それこそ学校だからと言って校長先生が来るのを待っている訳にはなりませんね。

この前も地区で防災の避難をする時にそういう話をしたんですけども、実際その人が集まって話ししてみると意外と盲点が見えたりとか、この道って言われるけど、ここは危ないでとかってやっぱりあるように、その人じゃないとわからないものってあると思うので、やっぱりそこは地域の方が自主的にそれぞれがやっていく必要があるし、それからいっぺんに全部のことをやると大変なので、例えば体育館の中にみんなが集まって設定するところだけとか、今までは炊き出しだけっていう感じがあったんですけども、そういう何々だけでもいいので、部分的でもいいので、実際に即したような。毎回毎回出てこられる大人がただ来てやるのではなくて。足が悪くて歩けれんっていうお年寄りを連れて行ってみるっていうのが無いと、実際にほんと動かせるかどうかっていうのは中々難しい気がしますのでね。本当にほんとに一つひとつちょっとずつですね。

委員

今回の水害でも一気に水が増したじゃないですか。

学校は子どもを帰らせるかどうかという判断は校長は大変苦しみならへんかな

と、ああいう状況を見ると。災害で途中で流されちゃったら学校の責任も問われかねないということですから、かなり厳しい想定もして先生方には注意していただかなければならないかなと思いますね。

委員

それからもう一つ気になったのが、避難場所が大概体育館か公民館で平屋ですよ。上北条なんかは水がいたら平屋ばかりじゃどうするのかかなと思ったりするんですけれども。やっぱり災害といっても地震なのか水害なのか、それに合わせての想定も必要だし、中々難しいですね。

委員

まあ、だけどいいマニュアルを作っていたのは間違いないと思います。

委員

そうですね、これを基にしてみんなが動けばいいですから。

委員

こういうマニュアルっていうのは公民館には当然渡っているんですか？

教育総務課長

市の防災計画であったり、今見ていただいている、このP.17までの分は、倉吉市の避難所運営マニュアルということで同じものですので、そちらはホームページにも挙がっていますし、公民館にも置いてあるかもしれません、ないですかね？

生涯学習課長

ないですね。防災安全課の方が基本は主導してやっておりますが、地区公民館においては、これのもう少し前の、一時避難所として何度も実は動いております。

地区公民館までは、それでも一時的に一晩二晩ぐらいまでの対応であればできるのかなという風に思うんですけれども、それ以上を超える長期であるとか、本格的な大型の地震なんかっていうのが、先ほどからありますこれからする意味では、これをベースに深めていくっていうことがこれからの宿題になってくるのかなという風に思います。

委員

ご承知のとおり年配の方が多地域になってきましたので、自分たちも自分たちの班で、年配の一人暮らしの方はどなたで、それは誰が見るんだということを知って、じゃあどこに連れていくんだっていうのがあって。

この間、2年ぐらい前ででしょうか、ちょっと水が多い時に、公民館に一時的に避難させようかなというのもあったんですけど、鍵がないとか誰が行ったのかよくわからないとか、ああ結局問題なのはここなんだというのがあって、要は公的なものより地域が、ということが大切だなというのはつくづく感じたんですけども、このマニュアルをどこでどう見ればということを住民の方に周知しないと、聞いてないというパターンが半数以上でしょうから、なんかいい方法を考えないといけないですね。ホームページに挙がっているのは確かにいいことですし、なんか色んな場面でこういうのもあるんだよというのを伝える場所が欲しいですね。良い物ですので利用しましょう。

教育長

ちょっと踏み込んだ、より具体的な手がかりが出来たと思いますので、ここで議論していただきながら、これが足りないなというのは付け加えてもらうという方向で。少なくともこれは学校と、地区公民館にも参考に配布していただいて。

生涯学習課長

今後議論を深めてさせてから、これだけでは多分使えないと思いますので。その組み立てをどう持っていかってところが、大きな課題なのかなと思いますので。

委員

各自治公民館も自分たちでこういったものを使って訓練ができるように、そういう意識になってないと、いざ行ったってお客さんみたいなつもりで行っても、気は高まっとるしでは落ちつかないから。大いに活用しましょう。

教育長

早いこと役員を決めてもらっておいて、一度集まったときに例えば物資を伝達しますよということで、各町内から集まってもらってこうやりますというのを、一度だけでもいいですから、それをやるのが値打ちです。

そこまで今やってないでしょう？

委員

で、誰が担当するかっていうのが。

この前もちょうど自治公民館でやったんですけども、例えば2班の人はどこに手伝わなければいけないお年寄りがいて、例えば設定が昼間の仕事にみんなが出てしまっている時だと、誰が居て、誰がどこに行つてつという、担当をきちんと決めないといけないという話があって、やっぱり誰がっていうのが最初に無いとみんながぼっとしてしまうので、最初はそこですね、誰が何を担当するかっていうのをまず決めて、その人がじゃあどうしたらいいかって考えていくためにも、まずその辺を役割分担していかないといけないですね。

教育長

はい。前編の防災計画の方は市のものに基づいたということでございますので、一応教育委員会としても定めていなかったものですから、改めてもう一度確認をして、学校の方にもまた下ろしていきたいなと思っております。

一応これで、まだまだ不完全なところはありますけれども、その都度また市の方も変わってきていますので、またそれはその都度直すということで了解をいただけますでしょうか。

(各委員意見なし)

6 報告事項

○教育長報告（教育長 別紙のとおり）

○倉吉市議会対応状況（教育長 資料に沿って説明）

○学校教育課（学校教育課長 資料に沿って説明）

- (1) 区域外就学・校区外就学の承認について
- (2) 不登校・問題行動の状況について
- (3) 青少年問題対策協議会について
- (4) 第1回イングリッシュシャワーームについて
- (5) 倉吉市・東伯郡小学校外国語活動研修会について
- (6) 菜の花プロジェクト 共同区域種まき実施について

教育長

ちょっと長いのでここで切りたいと思いますが、学校教育を含めて何かございませんでしょうか？

種を蒔いたあと台風が来ましたが、流れたってことは無いですね？

学校教育課長

そうですね。

もうあと少ししたら肥料をやらないといけない時期になってきますね。あと1週間くらいとみておりますが。

委員

発芽するのはいつ頃だったですかね？

学校教育課長

大体10日間から2週間みないといけませんが、私たちが蒔かせていただいたのがちょうど雨降りだったんで早めに芽は出ておりますので。

教育長

他の草よりも早く大きくならないといけないのです。

学校教育課長

それと昨年度のものも残っておりまして、最近指導主事も芽を見ただけでこれは菜の花だと分かりますので。昨年度のものも残っていて芽を出していましたので、もうそろそろ肥料の方もやらないといけないかなと考えております。

教育長

それから英語の研修をさせていただきました。

委員
教育長
委員
学校教育課長
委員
教育長
委員
委員
教育長
委員
教育長
委員
教育長

これ大変なやつなんですね。
腹をくくって。
なかなか文科省の調査官は、若い方かな？パワフルでした。圧倒されました。
このイングリッシュシャワーームの小学校の先生 39 名は自主参加？
いえ、先ほど申しましたが悉皆^{しっかい}としますので、三年間で全部の小学校の先生方、三年間で全員出ていただくように考えております。
アンケートの中であまり思わない 6.1%を固定した一人の方がおられた感じですけども。まあなかなか自分でそう思わないと。
苦痛だったという。
大変なんでしょうかね。
同じ方かなと思いましたがけれど。
先生が前向きに捉えられることが大事ですよ。苦手だからというのではなく、苦手だけががんばろうっていう。子どもは良く見てますのでね。
なんか子どもの色んな感想聞いていると、上北条小学校はうちの子が入った時、1年生の時からずっと何かしらあったので、やっぱり先生の様子見ている、あの先生は分からない時は、「私分からんけ」って言うておられたりとか、やっぱりしっかり見ているので、先生のその意欲的なところとか、失敗したって大丈夫だよっていうのを見せるっていうのも大事だと思いますね。
英語教育は、私の子どもたちの保護者なんかでも、熱心な方は本当に熱心で、差がすごくついていると思います。やっぱりこれから大学に行くようになると、世間では英語は当たり前のようにになっているのに、田舎出身だから出来ないでは済まなくなってますよね。いかに英語でしゃべるのが当たり前な感じを作れるかって大事ななって思いますのでよろしくお願いします。
ちょっと危機感を持ちながら。
でもおそろくうちぐらいですかね、こうやってしっかりでやるぞって言っているのは。
そうなんですか。
県の方は伝達というか、各学校で1名ずつ選出して、それを各課程でセッティングする。
でもそれでは間に合わないと思いますので、なんとかうちでやっていることを県の方でもやれという風に働きかけております。
外国語研修会の参加者は各学校からお一人ずつですかね？
そうです。
これ授業中でしたので、できるだけこれを夏休みに持っていきたいとは思っているんですけども、講師との日程調整の関係でこうなってしまいました。
よろしいでしょうか。
(各委員意見なし)

○生涯学習課

- (1) 夏休み子ども体験教室の開催結果について
- (2) 第31回くらし女子駅伝競走大会・第36回日本海駅伝競走大会について

○文化財課

- (1) シンポジウム OKURA について
- (2) 「旧倉吉町水源地 ポンプ室」一般公開について

○博物館

- (1) 博物館講座事業報告について
- (2) 自然ウォッチング事業報告について

○図書館

- (1) 絵本作家講演会 新たに小学校公民館と連携して実施について
- (2) 夏休み月曜開館実績報告について

○学校給食センター

- (1) 学校給食センター調理等業務委託業者選定に係る事業者の応募状況について

委員

ちょうどくらのが朝ポスティングしてあったので見たんですけども、関金は公民館とか湯命館とか大きいところには置いてあるんですけども、やっぱり全世帯には行かないみたいでしたね。

でもいつも見ていて、この度の給食もいいなと思って見たんですけども、こういう風にまた宣伝していただいたら、より給食センターもがんばれるかなと子供たちもいいかなと思いました。

それから図書館の作家が灘手・上小鴨・社小学校を訪問する事業、やっぱり子どもたちに本物の作家さんのお話を聞かせてあげられるということ、こういう機会を持つというのは、子どもたちにとってもすごく良い事だと思いますので、予算は確かに少し上乘せしなければいけないかもしれませんが、本当にこういう機会があれば学校全体で参加のところもありますし、とても良い事だと思っておりますので、出来る限り子ども達にこういう機会を与えてあげて欲しいなと思います。それからさっき、課題とおっしゃっていた、司書教員さんと司書さんというのはやっぱり連携をとるべきだなと言う風に思います。図書館を見ているとやっぱり連携が取れているところはより充実すると思います。よろしくお願ひしたいと思います。

それから、私が参加させてもらった4つのあれです。私も全然したことのないことを事前に勉強させてもらって、先生みたいな顔をして、やっておりますけれども、子どもたちが本当に真剣に取り組んでおりまして、それプラスお母さんが付いて来ていらっしゃる場所は、お母さんが一生懸命している。やっぱり親子でそういうことができたり、そういう体験をするっていうのはほんとに子どもたちにとってはプラスになることだと思うので、また来年も色んなものを考えて、今年みたいな成果があるといいなと感じました。

委員

その倉吉大好き夏休み子ども体験教室、これ20名・19名・13名・15名という数で挙がっているんですけども、これは同じような子どもたちが集まるという傾向があったりとか、あるいはバラバラな方々が集まっているとか。

生涯学習課長

実際はやはりバラバラといいましようか、すべて共通して偏ってということではないですね。それぞれに、教室ごとに違う子どもさんの参加がありました。

委員

よかったですね。

委員

今回講義が入っているのがすごくいいなと思ひまして、ものづくり教室に子どもを連れて行っても、作って帰ったらポイ、みたいなのがあるんですけども、やっぱり

ストーリーがあってこういうものなんだというのがあると、そこに思い入れが入ってくるので、物をただ作るのではなくてそこにある背景とか文化とかっていうのが入ってきたということがすごくいいなって、次年度もぜひお願いしたいと思います。

生涯学習課長

ありがとうございます。

今ありました、やはり学習的な要素といいましょうか、ただ作るだけではなくてその背景などは確かに大事だという風に認識しております。そういう様な観点から入れさせていただきましたので、今後も充実させていきたいと思います。

教育長

その他よろしいでしょうか。

(各委員ご意見なし)

7 その他

教育長

統合の協議会に、こういう要綱をお示しして推挙していただくという方に持って行きたいと思うんです。

委員

どこにとりあえず文書を出すんですか？

教育長

一応地域の方は、自治公民館の協議会長さんのところに出させていただきます、地区振興協議会の会長さん、あるいは自治公の中でも会長さん副会長さんが出られるかもしれないし、そのあたりのところは地域にお願いしようかなど。

P T Aの方には連合会長さんには、事前にこういうことをしますのということはお話してあります。校長会の方も話してますので、P T Aと学校の方は3人は出てくると思いますが、地域ですね、問題は。

委員

地区公民館長もやってるんでしたっけ？

教育長

いや、それも向こうにお任せ。

地区公民館の館長さんはうちの命令系統になってますので、地域の代表ということでは自治公協議会の会長さん、地区振興協議会の会長さん、兼ねていらっしゃる場合は青少協の会長さんもあるでしょうし、あるいは自治公民館の副会長さんとかで10という風なことにしましたけれども。そのあたりを私達が説明に行き、そしてその時にちょっと寄っておいてくださいというやり方もあるのかなど。郵送ということではなくて、持って行くことはあると思いますが、その時に一人だけではなくて、そこで説明を兼ねてというのがいいのかなと思いますけれども。

委員

やはり現時的に子供たちがこれだけ減っている。やっぱりそれを先送りするっていうことじゃなくて、今これからの状況を考えながら今何をすべきかっていうような話を進めていかないと、先送りになってしまっただけじゃないかなと思います。難しいとは思いますが。

委員

この議会対応報告もまだ目を通してませんけれど、全体的な傾向、印象っていうのはいかがでしたでしょうか？

教育長

やはり今回は保護者のアンケートの結果、全体では7割賛成ですよという報告をさせていただきました。地域によっては、3割、5割賛成など説明させていただきました。

やはりアンケートの結果っていうのは大きいなという感じがいたしましたけれども、地域の了解をどう得ていくのかといった課題に対してそうだなという、これからお願いしたいと思いますが、しっかりと地域と連携しながら、話しながら進めていってほしいというのが願いです。

委員 少人数のクラスで子どもを見てもらいたいっていう保護者も、それなりにあるんでしょね、おそらく。

総合的なコストも踏まえ子どものためも考えて、どういう選択をするかというのも保護者もしっかり考えてもらわないといけないところですけども。

委員 実際問題そうやって少人数で見てもらいたいってことで行かせるにしても、例えば、子ども会の参加はどうなるのかとか、保護者同士のつながりはどうかとか、ただ子どもが行く行かない以外の部分が結構出てきますよね。

うちのところなんかでも、隣の河北小から来ておられた場合があったんですけども、子ども会は一応ここって言うことは言っておられるんですけど、実際には参加しておられない。で、保護者も来られないってことがあったりすると、じゃあ地域の活性化はどうかって言うと、活性化はしないわけですよ。学校がなくなっちゃうから地域が廢れるっていう意味で、よそから入れるって言うても、じゃあそれで地域が活性化するかっていったらそれには繋がらなかったりとか。来たからと言って必ずしも地域は活性化しなかったりとか、ただ単純に数の問題じゃないって言うところもやっぱり説明していかなければいけないかなって言う気もしますけれどね。

教育長

栃木市で行われた、あそこも2つの例があったんですけども、ひとつは英語をしっかりやりますよというもの、もうひとつは地域と連携しながらやっていくっていうもので、英語に特化したところは成功していますね。で、それ以外のところのやつは鳴かず飛ばず。

委員 地域での子ども会の催しなんかには参加できなくなってしまう？

委員 参加しようと思えばできるんでしょうけれども、相当に労力がいるというか親が連れて行ったりとかもありますし。

委員 距離ができちゃいますもんね。

委員 結構大変だと思いますね。

本当に小さい集団で部落放送で子ども会がありますから集まりましょう、みたいに集まるような感覚ですよ。いちいち区外の方に連絡して、親が連れてきて行事をやっているのが、なかなか大変じゃないかなという気がします。

委員 継続性はないかもしれませんね。単年度だったらありだけ。

委員 ですから、本当に単なる学校の人数を増やすだけに終わるのだったら、それほど増えもしないっていう、中途半端に終わりそうな気がしますけれどね。

教育長 鳥取市の例を見ても、30何人実際にあるわけですけども、18人が湖南学園の方に、あそこは比較的交通の便がいい所ということがあります。あとのところは1人あるいは開店休業の状態、制度は作っているけれども来てがないという状況です。

ですから根本的な解決には至っていない、湖南にしても合わせて90という数字ですから、そこから100を超えるところまでまだ至ってないですよ。あえてそういったものを踏み切るだけの、本当に子どもたちのためになるのかっていうことを考えた時に、先ほどあったように中途半端だなということがああるかもしれませんね。まあしかし、そこにすがりつきたいという思いはわからんではないですけども。

委員 どこでしたかね、分校っていう言葉が出たところがあった地域が、分校形式といいますか、学年分校といいますか。

教育長 そのあたりも協議会でね、しっかりと本当はそこで出てくれば、そこで行けばいい

といいと思いますし。

過渡期的に青谷小学校は5つの学校を1つの学校にしたわけですが、その中途で日置の谷と勝部の谷とそこをとりあえず2つにして、それから1つにしたという段階的な方法がございましたね。

その辺も含めて協議という形をして欲しいですね。だから様々な課題というのはそういうことを含めての課題ですよということを、もう少し説明しないと統合準備委員会というイメージを強く持っておられるので、そのあたりのところをもう少し説明しておかなければいけないな、という感じがいたしました。

視察とかそういうこともやっていかなければいけないだろうなど。

山守・関金でも、船上の学校に視察に行かれたってというのが大きなきっかけだったですかね。

学校教育課長

委員さん方の意見としてはかなり大きかったですね。インパクトがありましたので。私が山守の方でしたので、山守のみなさんの意見を聞いたのですけれども、山守の委員さん方はそのところで活気を見たため、統合は必要だと言っておられました。

教育長

粘り強く、時期的には開会が遅くなるかもしれませんが、粘り強く話をしながらテーブルに揃っていただくということをしなければいけないと思います。

委員

人数は定数このとおりに、柔軟性なし？

教育長

協議会ですので、あるいはもうちょっと欲しいということが多ければ、それはまた。あるいは特別委員という形で入れていくというのも可能なんではないかなとは思いますが、それはその都度協議してということにしてありますから、そこでじゃあもう少し一応委員としてはこうだけでも、参考の意見を聞かせていただくというようなことも、その中で諮って決めるというようなことで、いいのではないかなという感じはしますけれども。

3地区になると15という数になりますから、それを過ぎるとちょっとこれは協議をするのに中々難しいかなと。

委員

まず地元で一つの小学校区できちっと話をまとめるのに、5人でいけるかなという。

委員

反対者もあり、賛成者もあり、ただ反対の人ばかりの声だけではなくて、賛成する人もきちんと意見を言える場にして、どこが問題でどこが解決可能かというのが、前向きに話できるようなメンバーになればいいと思いますけれども。

委員

それは難しいですね。

教育長

それからあて職の任期ですが、これもちょっと話にはなりました。

あて職でいくのか、人で行くのか、それを含めて地域にお任せしようということで話はしてきましたけれども。

委員

その辺はお任せしようというスタンスしかとれないですね。

教育長

どうしても出せないとおっしゃるのでしたら、とりあえず役職ということで、この役職の方お願いしますというやり方で行くのかなと思いますが。

委員

地域の公民館長も1年ですよ任期は。

その中から協議会長を選んでだと、なんか深まりそうにないですね。もう少し考えて人選していただく必要があるのでは。

教育長

ですからこの協議会が長引く場合も考えて、数年ということも含めて人選をお願いいたしますという言い方のほうがいいのかと思います。

ただあくまでも協議ですので、ここで決定ということではないので、ひとつの考えを寄り集めて生み出していくという、そういう役割ですよということで、少し肩の荷を下ろしていただいて、最後決定のところについては統合準備委員会ということになりますけれども、ただ一つクリアしなければならないのは、協議会から準備委員会に持っていくぞという決定をしないとイケない。ここがやっぱり苦しむんですね。

その辺はお互いに切なさがあると思います。勝手に決めちゃってっていう。地域の方は地域が割れるということが一番心配しておられますので。そこは慎重にやらなくてはイケないですけれども、じゃあ地域がまとまるのを待っているのかと。ですから両方平行しながら、今ここまで考えたんだけどどうですか？というようなことをキャッチボールしながら、両方から締めていかないと締まらないなという感じはしますけれども。放っておいて解決できる課題ではないですから。事態はますます悪くなると。

委員

いつまでも反対していれば、いつまでもせず済むみたいな感じになってしまってもいけませんしね。何が問題かっていうのを出してもらって、それに対してその問題を解決するにはどうしたらいいかなって一つひとつしていかないと、全然前に進まない感じがありますね。

まず人選から大変そうですけれども。

委員

例えば小学校区の意見がまだまとまってない段階で、2、3地区集まっても、とても話にならないと思うんです。

そうになると、地域でこの人数ではちょっと難しいと。もう少し少なくとも10人くらいいて、例えば高城だったら10人くらいで、こういうところが問題だなという風な認識でまとめて、3地区の協議に臨むと

というようなことになりませんか。

教育長

その地区での協議会、いわゆる小学校、各小学校での協議会になるものが出来ていないということですよ。そこをこちらがセットして作るのか、お任せするのか。

委員

協議会に入る人を選ぶためには、やはり地区で話し合いの場を持ってもらって、その意見をもって代表を決めて出ていただくっていう形にしないと、適当にただ選んで、いやそれは地区の総意ではないってことになってしまいますので。

人選をするための会でもいいので、何かちょっときっかけにして集まってもらって。

委員

投げかけられたら地区も考えますよ。

教育長

と、思うんですけれどもね。

委員

館長会で決めて、個別委員会みたいなものを作ってまとめてこう。

教育長

で、その時に来て話をしてくれということでしたらいくらでも行きますよと。

立ち上げについては早いほうがいいですけれども、そうはいっても準備がありますから。該当地区にしてみれば、市全体で7割が賛成だと言われても、関係ないうちはとんでもない話なのと言われてますから。そういったことで外側からぎゅーっとねじるようなことはやめてくれと言われてますから。やっぱり事実はこちらですよ。ですからいつ頃までっていうアンケートの結果はこちらですよ。だから私たちはそういったことも踏まえながら進めていかなければならないとは思いますが。しかし、地元の意見も分かりますから、そんなに今すぐに出せということではないですよ、しかし、これに向けての何らかのお互いに話し掛けをしましょうよ、そのために材料提

供は私たちもしますし。という形で地域にお任せしながら、それでずっとホールド状態になってしまっても困るんですけども。

委員

でもちょっと動かすための仕掛けはしながら、今回みたいに協議会に出てもらう人を選ぶ。もしくは、何かを考えなければいけないきっかけをちょこちょこ出しながら進めていって、待っているだけではそれこそ固まってしまいます。

委員

どこかに早く一つ作らないといけませんね。

教育長

またこういう手もあるんじゃないか、ということがありましたら教えていただければ。一つこちらもアクションを起こしかけているところですので、地域がそれに嫌だと言われるかもしれませんが、うちは、じゃあ課題はどう解決しましょうか、ということではいかなければいけないと思いますので、またよろしく願いいたします。それではよろしいでしょうか。

(各委員ご意見なし)

次期委員会について調整し、次のとおり決定

日 時：平成 28 年 10 月 27 日（木）午後 3 時

場 所：倉吉市役所 第 3 会議室

午後 4 時 50 分終了

8 閉会